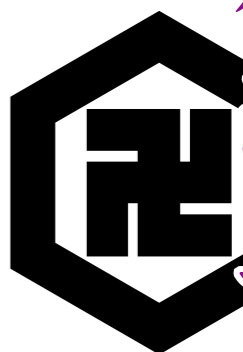


特集

須坂藩13代藩主 堀直虎



今年、須坂藩13代藩主堀直虎の没後150年の年です。「堀直虎没後150年祭」として、さまざまな催しが実行委員会により企画されています。また、今年のNHK大河ドラマは「おんな城主 直虎」です。違う人物とはいえ、「直虎」が注目される年になるのではないのでしょうか。今回の特集では、堀直虎はどのような人物だったのかを紹介いたします。問合せ 博物館(☎026・245・0407)

14代続いた須坂藩

須坂藩は、初代藩主・堀直重(下の写真)が興しました。堀家の祖は、尾張国(現在の愛知県西部)の土豪で、本姓は「奥田」でした。直重の父・直政は、戦国時代の終わりに織田信長と豊臣秀吉に仕え、秀吉から堀姓を与えられました。直政は、秀吉が死去すると、徳川家康に忠誠を示すために4男の直重を証人(人質)として江戸に送りしました。直重は、徳川秀忠軍に属し、関ヶ原の合戦や大坂夏の陣での活躍が認められ、慶長6(1601)年に下総国現在の千葉県ほかに、元和元(1615)年までに信濃国高井郡(現在の須坂市ほかに)、合計1万2053石を与えられたのが須坂藩の始まりです。

須坂藩は、現在の常盤町の奥田神社や須坂小学校などがある場所に館を構え、以降、明治4(1871)年に廃藩置県となるまで、14代・約250年にわたり1万石余りの小藩を治めました。その間、11代の直格、13代直虎は



▲須坂藩初代藩主・堀直重(千葉県香取市 宗勝寺蔵)

文武両道を奨励し、吉向焼や書など優れた文化を生み出し、現在も市民の心・風土に受け継がれています。

須坂藩のデータ	
藩名	須坂藩
立藩	元和元(1615)年
廃藩	明治4(1871)年
立藩石高	1万2053石(廃藩時1万53石)
江戸上屋敷	南八丁堀(中央区新富ほか)
家紋	亀甲に万字

堀直虎はどのような人物だったのか①

■誕生と時代背景

須坂藩13代藩主・堀直虎は、天保7(1836)年、11代藩主・直格の子ともとして江戸(亀戸下屋敷)で生まれました。直虎が生を受けた頃の日本は、長い鎖国時代を経て世界情勢の動きの中に大きな変革を予感させる時代でした。生まれる約10年前には「異国船打ち払い例」が発せられ、生まれた2年後には、渡辺華山や高野長英など外国船の打ち払いに反対した人たちが罰せられた「蛮社の獄」が起りました。また、資源と商品を求めてアジアに進出したヨーロッパやアメリカによる開国要求が強まっていた時代でした。



▲『桜譜』…直虎が序文を書き写本したといわれている桜の図譜(博物館蔵)

■生い立ち

直虎は、幼い頃から賢く、学問や武芸に励みました。当時の大名家の教育は厳格なもので、漢学(中国の儒学)や国学、武術、英学、蘭学などを学びました。

■黒船来航と直虎

嘉永6(1853)年、直虎が17歳の時に、アメリカのペリーが乗った黒船が浦賀沖に来航しました。その頃直虎は、蘭学や西洋式の兵学砲術を学び、特に兵学砲術の師だった南郷茂光と上田藩士・赤松小三郎から大きな影響を受けていました。直虎は、南郷が著した書の序文を書き、直虎自身が「英国騎兵連兵書」の翻訳に取り組んだといわれています。この頃須坂藩は、軍制にオランダ式を取り入れ大砲を備え、鎌田山に据えて試射を行なっています。兵学を学んだ直虎は、当時の須坂藩主(12代)だった兄の直武に、西洋の軍器や教練法を採用し、さらに軍備を充実させることを説いた「警備策」を建言しました。直虎は衣服も西洋風に改めました。

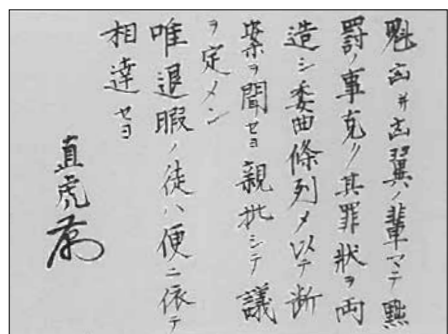
■直虎の藩政改革

また、写真機を買って写したり、自分のことを「Straight Tiger」(直虎)と称したといわれ、人々は直虎のことを「唐人堀」と呼んでいました。文久元(1861)年、兄の直武が隠居し、直虎は25歳の時に須坂藩13代藩主となりました。当時の須坂藩は、長い間借財に悩み、御用金や献上金の徴収が行われ、賄賂が公然となるなど政治が乱れていました。直虎はこれを正すために、かつての家臣を追放し、金貸会所(金の貸し付けを行う場所)を廃止して貸付金を棒引きにし、御用金や献上金の習慣を改めるなどの改革に取り組みました。また、軍制をイギリス式に変えるなど、積極的な軍事改革も行いました。

幕末の動き

年	出来事
嘉永6(1853)年	ペリー来航
安政元(1854)年	日米和親条約
安政5(1858)年	▼日米修好通商条約 ▼安政の大獄(～59年)
万延元(1860)年	桜田門外の変
文久3(1863)年	薩英戦争
元治元(1864)年	▼池田屋事件 ▼長州征討(1次) ▼四国艦隊下関砲撃事件
慶応2(1866)年	薩長同盟
慶応3(1867)年	▼長州征討(2次) ▼大政奉還
慶応4(1868)年	▼王政復古の大号令 ▼鳥羽・伏見の戦い ▼五箇条の御誓文 ▼江戸城開城

直虎は衣服も西洋風に改めました。



▲直虎が家臣の丸山次郎本政に送った文書…藩政改革で罰せられた家臣の罪状を報告するように指示している(博物館蔵)

堀直虎はどのような人物だったのか②

■大政奉還後、幕府の要職

直虎の藩主在任中は、「日米修好通商条約」から「安政の大獄」や「桜田門外の変」を経て、「薩長同盟」が結成され、討幕運動が本格化する激動の時代でした。

大政奉還後の慶応3(1867)年、幕府は、藩政改革で手腕を見せた直虎を「若年寄兼外国惣奉行」の要職に任命しました。

若年寄は、旗本・御家人を統括する立場で、外国惣奉行は、外交の責任者という重職です。当時は、藩主自らが洋学を学んだ例は少なく、直虎の洋学の見識が買われての抜擢だ

つたといわれています。

側近の北村方義は、他の藩士とともに江戸へ赴き、勤王の立場から直虎に職を辞すよう進言しました。しかし直虎は、方義の意見に理解を示しながらも、徳川家への恩義などを理由として職を辞すことはありませんでした。

直虎の就任直後には、王政復古の大号令が発せられ、新政府の樹立が宣言されました。新政府は、徳川慶喜に官位辞退と領地の返納を命じました。旧幕府軍はこれに反発して京都に進撃しましたが、「鳥羽・伏見の戦い」で敗北する結果になりました。

■江戸城内で自刃

「鳥羽・伏見の戦い」で敗北した徳川慶喜は、江戸へ戻りました。しかし、幕府の軍隊をそのままにして自分だけ逃げ帰ったかのような江戸城への帰還に批判が集中しました。

慶応4(1868)年1月7日、朝廷から討幕の命令が出され、官軍は江戸に向け兵を進めました。江戸城では討幕軍と戦うか、朝廷と新政府に従うか連日会議が持たれました。

こうした中、慶応4(1868)年1月17日、直虎は会議の席上で、徳川慶喜に何事かを諫言(目上の人の過失などを指摘して忠告すること)し、江戸城内で自刃しました。享年33歳でした。

■須坂藩と直虎のその後

直虎の死から3カ月後、勝海舟と西郷隆盛による和平交渉の結果、江戸城は無血開城され、徳川慶喜は城を去りました。

藩主・直虎の死後、須坂藩は藩論を統一し、藩の存続をかけて官軍に参加し戦功を上げました。これにより、直虎の弟の直明が14代藩主に就任することが許されました。

その後、明治2(1869)年に須坂藩は版籍奉還し須坂県となり、後に長野県に統合され、須坂藩は終焉しました。直虎の遺骸は、東京都赤坂にある



▲『名譽新談』(月岡芳年)…直虎が諫死前に考え事をしている様子を描いた錦絵。直虎の死後、明治時代に描かれた

堀直虎を盛り上げる催しがたくさん!

堀直虎没後150年を迎えた今年、堀直虎を知ってもらおうとさまざまな催しが企画されています。



田中宏和さん(穀町)
▼奥田神社氏子総代
▼堀直虎没後150年祭実行委員長

日(土)に「堀直虎 姦譜の杜 桜まつり」を開催し、市民のみなさんに楽しんでいただいています。

■150年祭でさまざまな催し

今年、堀直虎没後150年の年です。実行委員会を組織し「没後150年祭」としてさまざまな催しを計画しています。例えば、漫画『堀直虎物語』の販売、4月の堀直虎劇(下の記事参照)、5月の「堀直虎 姦譜の杜 桜まつり」、須坂藩館のジオラマ作成、11月の記念式典・講演会(浅田次郎氏)などを予定しています。

この機会に、市民のみなさんに各種催しに参加してもらい、堀直虎という須坂の偉人を誇りに思ってもらいたいです。

■直虎を題材にした舞台を演出



青木由里さん(長野市)
▼NPO法人劇空間
夢幻工房理事長
▼脚本・演出家

私は、18年前に劇団を立ち上げ、さまざまな演劇の舞台を創作しています。内容は、エンターテインメント、時代物、コメディ、児童劇など多岐にわたります。ここ数年は市民のみなさんに地元の歴史や偉人を知っていただき、地元を誇りと愛着を深めていただきたいの思いから、地元史を掘り起こして作品作りをしています。堀直虎というお殿様を知ったのもそんななかでした。

直虎公を調べていくと、御恩のある徳川幕府を存続させるために奮闘し、桜のように美しく威風堂々と「義」の道に生きた人物であることがわかり、とても惹かれていきました。

そして2年前の夏、直虎公を主人公とした舞台「Straight Light Theater直虎」の脚本を書き、野外で初上演しました。今年はこの

■知らない人でも楽しめる

この公演の目的は、須坂の誇りともいえる幕末の殿様「堀直虎」公を多くの人に知っていただくことです。歴史と聞くだけで「難しい」と距離を置く人がいるかもしれませんが、ここで、子どもから高齢者まで大勢の方に楽しんでいただける舞台を上演し、観劇をとおして郷土の歴史と直虎公の生きざまを知っていただきたいと思っています。

この舞台は、公募した6歳から70代までの約80人が出演する「パワフルエンターテインメント」です。芝居はもちろん、ダンスや歌、生演奏、舞台美術、衣装など見どころ満載です。直虎公を知っている人も知らない人も、笑って泣いて感動できる内容です。ぜひ、生のステージを目撃しに会場に足を運んでください。



▲昨年の「堀直虎 姦譜の杜 桜まつり」の様子



▲2年前の公演の様子



▲直虎没後150年法要が奥田神社で行われた(今年1月17日)
▲かつて須坂藩の館があった奥田神社(常盤町)は、藩祖・直重と直虎を祀っている